農文協特集 第2部

図書館必備図書案内

学術・逐時刊行物

【年報】村落社会研究
（日本村落研究学会）

村落（地域）の実態調査と理論的追究の両面から、変貌する農業・農村を解析し、新たな地域計画を提案する学際的研究の本。毎年、10～11月に発行。時代性を考慮してテーマを決め、毎年の大会でシンポジウムを開催。その結果を「年報」として出版する。2001年は**38集**「日本農業・農村の史的展開と農政」、2002年は**39集**「いま改めて日本農村の構造転換を問う」（予定）。日本農業・農村の動き（変化）の底流を丹念に分析。**33集** 有機農業運動の展開と地域形成 4700円／**34集** 山村再生―21世紀への課題と展望 6200円／**35集** 高齢化社会を拓く農村福祉 6200円／**36集** 日本農村の「20世紀システム」―生産力主義を超えて 5800円／**37集** 日本農業・農村の史的展開と農政・第2次世界大戦後を中心として 5800円

村落社会研究ジャーナル
（日本村落研究学会）

日本村落研究学会若手の登竜門ともいえる年2回発行の学会誌。テーマを設けず、幅広い関心のなかから投稿された論文を、掲載に向けて厳しく査読。表立った動きの背景にある流れを分析するよう指摘。掲載論文は、市町村が政策を立案・実行する際に注目する、表面に現れた動きの根源に迫る。今後、現実の動きとの接点ができるようなページ（コーナー）を設け、世に名の知れた中堅ところの会員（研究者）も健筆をふるう。年2回（3月、9月）発行 1200円

農業法研究
（日本農業法学会）

農業と地域社会の基本要素（＝人と組織、土地と資源、流通や制度等）について新たな再編をめざす法社会学探求の本。毎年、4・5月に発行。この5月刊行の37号の主要テーマは、「食の安全と環境、農業」。昨年、福島県熊塩加納村でのシンポジウム報告。現地農家等の報告を軸に有機農業と改正JAS法、遺伝子組換えと農なと多様に論じられ、さらに研究論文として野菜のセーフガード問題が論じられるなど、生産者も含め農業関係者にとって非常に参考になる。**33号** 農地制度の新しい理念を求めて 3800円／**34号** 農山村の地域資源と農林業 3800円／**35号** 中山間地域の維持と農林業 4200円／**36号** WTO体制と日本農政改革のゆくえ 5000円／**37号** 食の安全と環境、農業 4200円

国際部会リポート
（農政研究センター）

海外との情報交流を濃密にするため、世界各国の第一線の研究者による食料・農業・環境・社会システムの最先端探求（文献）を翻訳、国内に紹介する。最近では、農業の多面的機能、持続可能な農業と環境等、現在、世界で話題になっている事柄に対し世界ではどう対応しているか、外国のしっかりした文献を翻訳している。最近刊（この3月刊行）の「**自由市場と社会正義**」は、国際部会リポート産みの親、故・小倉武一氏が選書した最後の本。**No.44** 田園景観の保全―景観生態学、戦略、実践 7500円／**No.45** 詳解 WTOと農政 4600円／**No.48** 自由市場と社会正義 8800円



国際部会リポート英語版
（農政研究センター）

日本の食料・農業関係文献を英訳し、海外に日本農業の姿を紹介する。海外の研究者、農政担当者との交流を深めるシリーズ。現在、農政研究センターから海外の日本大使館や諸外国の在日大使館等へ無償提供されている。（国内の）大学に海外からの留学生が多く、日本の農業を分析・英文化したものがほとんどない現在、（大学の研究室等で）教科書として使いたいとの動きがある。**No.18** Changes in Japan's Agrarian Structure（日本農業の構造変化） 4600円／**No.19** The Driving Force of Japanese Agriculture（日本農業の担い手） 2700円／**No.20** Impact of Increased Imports on Japan's Food Market（農産物の輸入と市場の変貌） 4200円／**No.21** Japan's Livestock Industry―Now and in the Future（わが国畜産業の課題と展望） 5000円／**No.22** 1990s：A Decade for Agricultural Policy Reform in Japan―Breakaway from the Postwar Policies（日本における農政改革の10年―戦後農政からの脱却を目指して） 3400円／**No.46** 持続可能な農業と環境―グローバリゼーションと貿易自由化の影響 7200円／**No.47** OECDリポート 農業の多面的機能 4600円／**No.48** 自由市場と社会正義 8800円

農林水産政策研究叢書
（農林水産政策研究所）

農林水産政策研究所は、昨年4月、旧農業総合研究所を再編成し農林水産分野の政策研究所として新たにスタートしたいわば農林水産省のシンクタンク。広い分野にスタッフがそろっている。そのスタッフが長年継続研究してきたもの（論文など）を再構成・加筆し、内部の厳しい審査を通ったものが「研究叢書」として発行される。この3月発行の「**フランス農政における地域と環境**」（1号、3200円）は、農業生産国フランスにおける農村地域振興等の政策を、直接支払いである経営補助金の視点から捉え検討したもの。「直接支払い」を初めて導入したわが国にとって参考になる。2号の「**日本農業の構造変化と展開方向**」（仮）は、同研究所が総力をあげて行なった2000年センサスの本格的分析である（8月発行の予定）。



【年版】世界食料農業白書
（FAO協会）

「（年版）世界食料農業白書」は、最近の世界農業の動向と課題に関するFAOの年次報告である。世界の農業情勢のほか、世界の農業情勢を取り巻く経済の全般的状況をも考察している。2002年版（2001年報告）では、農業貿易に関するWTO多国間交渉の検討と、「飢えのコスト」すなわち飢えと栄養不良が経済成長と貧困撲滅に及ぼすマイナスの影響に関する研究が取り扱われている。特集は「越境病害虫等の経済的影響」。越境病害虫等を抑制する手段として、なぜ規制措置が当化されるかを説明、それらと戦うために用いられる主要な措置が解説される。2002年版（2001年報告）は、現在発売中（定価4200円）。

【年版】世界の食料不安の現状
（FAO協会）

世界で8億人以上いる栄養不足者をおそっている飢餓は、どの程度深刻なのだろうか？「（年版）世界の食料不安の現状」は、世界の人たちの栄養状態を監視し、2015年までに世界の栄養不足者を半減するという目標に到達するための世界全体及び各国の努力について述べる、FAOの年次報告。最も貧しい国々においてすら、食料不安の縮減のために広範かつ実際的な諸措置がとられている状況を述べている。2002年版（2001年報告）は、「開発途上世界の食料と栄養：明日への挑戦」。定価1500円

【隔年発行】世界森林白書
（FAO協会）

「世界森林白書」は、隔年ごとにFAO林業局から出版され、世界の森林の状況について最も包括的かつ最新の情報と林業部門における新たな展開を読者に提供する。世界の森林について政策関連の情報を必要とする政策立案者、林業技術者、研究者及び関係市民に対する貴重な参考書。

この9月、2002年版（2001年報告）発行・発売予定（予価4200円）。

【年版】食料白書
（農政研究センター）

わが国唯一の食料問題の白書。問題の所在を的確に把握し追究する。食料にまつわる、その時々関心をもたれている事柄を生活視点から分析、できるだけ平易に表現する大衆向けの本。2002年版「**バイオテクノロジーへの期待と不安**」1850円、2003年版「**食生活の変化と食品産業**」（予定）。

1998年版 変貌する世界のコメ経済2100円／1999年版 新たな漁業秩序への胎動 1800円／2000年版 農産物の輸入と市場の変貌 1950円／2001年版 畜産物の需給動向と畜産業の課題 1950円

農文協

農・食・思想―人文関係図書



【日中国交正常化30周年記念出版】杜潤生 中国農村改革論集

農林中金総合研究所編　改革開放期の農業政策を策定した最高実力者の論文・講話を精選。中国社会の基底を知る歴史的証言。キーワード解説、解題付、762頁 ●12000円

西田哲学の「行為的直観」

竹内良知著　西田哲学の今日的な意義を〈行為的直観〉という概念をキイに解明する著者の遺稿集と、その思索の推移を示す編集者宛の18通の書簡 ●1800円

多文明共存時代の農業

高谷好一著　二つの農業―食べるための農業と売るための農業―の起源、生成、展開を総覧し、21世紀の世界が依拠すべき基本構図を明らかにする。 ●1800円

昭和農業技術史への証言

【第1集】西尾敏彦監修、昭和農業技術研究会編　戦中戦後の混沌の時代に立ち向かい、新生日本を米増収で導いた技術研究者五人の生の声。 ●1750円

対話学習 日本の農耕

守田志郎著、解説・原田津　農民との対話で古代から明治まで農耕の歴史をたどり、農家の自然観・生活観に根ざした新しい日本史を構築。 ●1850円

小農はなぜ強いか

守田志郎著、解説・徳永光俊　自立した生産と生活の営みとしての小農。時代に翻弄されない強靭さとその根拠を、明確に浮き彫りにする。 ●1400円

復刻 昭和二十年八月 食生活指針

敗戦の年、静岡県が配布した食糧難時代のサバイバル指針。身近で意外な動植物を食材にする知恵。解題・今村純子、豊川裕之、田村真八朗、福場博保、松下幸子 ●1600円